

# ほすびたる

No.777

令和7年3月20日  
福岡県病院協会

C O N T E N T S

会員広報 | 第28回四県（福岡、岡山、広島、山口）病院協会連絡協議会  
公益社団法人福岡県病院協会 専務理事 壁村 哲平 ①

声 | 病院薬剤師の  
出向仲介事業について  
公益社団法人福岡県病院協会 参与  
公益社団法人福岡県薬剤師会 副会長 後藤 渉 ③

新人物 | 就任のご挨拶  
JCHO久留米総合病院 院長 牛嶋 公生 ⑤

就任のご挨拶  
産業医科大学若松病院 院長 平田 敬治 ⑥

病院管理 | 福岡大学病院のこれから  
福岡大学病院 病院長 三浦伸一郎 ⑦

研修医教育の現場から  
—主体的に学べる環境づくりを目指して—  
久留米大学病院 副院長  
(呼吸器外科教授) 光岡 正浩 ⑩

当院における多職種による  
診療記録質的監査の変遷  
国立病院機構九州医療センター  
診療情報管理士 皆元麻里加 ⑫

看護の窓 | 看護補助者と看護師が協働を  
進めるための取組み  
～エスコートチームの発足と活動～  
済生会福岡総合病院 看護部  
看護課長 佐伯ひろみ ⑬

Letter | 三十年という歲月  
国立病院機構九州医療センター 名誉院長  
学校法人原学園原看護専門学校 顧問 朔 元則 ⑭

Essay | 人体旅行記 乳房（その二十六）  
国立病院機構都城医療センター 院長 吉住 秀之 ⑱

福精協の広場 | 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院  
「映画と健康寿命 ～2025年を迎えて～」 作業療法士 平岡 敏幸 ⑲

福岡県私設病院協会 令和7年1月～2月の動き ⑳

福岡県病院協会だより ㉑

編集後記 岡嶋泰一郎 ㉗

# Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。  
ネットワークを利用した読影サービスで、  
あなたをバックアップします。



## Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～  
医療に地域格差があってはならない  
そう私たちは考えます。

## ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～  
放射線科の先生方向けに、遠隔  
読影システムから課金に至るまで  
統合的にサービスをご提供します。

## 株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1  
九電工福岡支店ビル6階  
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867  
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

病院寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテン・ベットマットのリース・洗濯  
入院セット・患者私物衣類の洗濯・紙おむつ販売・給食・配茶

福岡県私設病院協会グループ

## 福岡医療関連協業組合

理事長 中尾 一久

専務理事 津留 英智  
理事 江頭 啓介  
理事 松村 順  
理事 木村 寛

理事 鬼塚 一郎  
監事 田中 圭一  
監事 横倉 義典  
事務局長 日比生英一



JQA-QMA  
15863



〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田1217-17  
TEL(092)976-0500 FAX(092)976-2247

Clean & Comfortable

清潔さと快適さを追求します



# 第28回 四県（福岡、岡山、広島、山口） 病院協会連絡協議会 報告

会報

◎公益社団法人福岡県病院協会 専務理事 壁村 哲平

1 日 時 令和7年1月24日（金）

15：00～17：00

2 場 所 ANAクラウンプラザホテル福岡

（福岡市博多区博多駅前3-3-3）

3 出席者 岡山県（重井会長以下5名）

広島県（檜谷会長以下5名）

山口県（三浦会長以下4名）

福岡県（中村会長、平副会長、壁村専務理事、岩永総務理事、伊東財務理事、中房企画理事、志波理事、横倉理事、野村監事、楠原監事、今泉顧問、事務局2名、計13名）

合計27名

## 4 会議概要

中村会長の開会挨拶、出席者の自己紹介の後、中村会長が議長となり、議事に入った。

### 議題1 各県病院協会の事業実施状況について

各県事務局長から、事業実施状況等について報告があった。

福岡県：予算規模 29,434千円

各種研修会・県民公開シンポジウム、機関誌発行

会員数 242病院（組織率54%）

事務局 2名

岡山県：予算規模 91,222千円

各種研修会開催、表彰、調査、機関誌、医療賠償責任保険等保険料集金事務等

会員数 156病院（組織率99%）

事務局 4名

広島県：予算規模 45,986千円

各種研修会開催、表彰、会報発行等

会員数 239病院（組織率97%）

事務局 3名

山口県：予算規模 30,250千円

各種研修会開催、表彰、調査、会報発行等

会員数 126病院（組織率91%）

事務局 2名

### 議題2 各県提出議題について

(1) 岡山県病院協会倉敷支部病院経営アンケート結果について（岡山県提出）

重井会長から、岡山県病院協会倉敷支部の事務長会が内部で行った経営アンケート結果について説明があった。主な内容は以下のとおり

- ・2024年度診療報酬改定の影響について、7割の病院で「利益が減る、若しくは赤字拡大」、新設のベースアップ料についても全病院が職員処遇改善には不十分と回答
- ・病院経営に必要な利益率3パーセントに達しない病院の割合が年々増加しており、設備・医療機器の更新ができない状況
- ・医療従事者については、どの職種も不足しており、充足と回答した病院においても、現場の疲労感は強い。待遇面から、他産業に人材が流出している。

(2) 各県の看護師・薬剤師の確保状況につ

いて (広島県提出)

檜谷会長から、「広島県では、人手不足、経営難で病棟を閉鎖しなければならない病院が出てきている。特に看護職については、看護師養成学校が受験者数の減少に伴い厳しい運営状況に置かれているほか、現職の看護師が産休・育休の後に現場に戻れない、当直を嫌うなどの問題を抱えている。薬剤師についても、収入格差等から病院薬剤師の確保が難しい状況にある」と医療従事者の人手不足について現状説明があった。

これに関連し、出席者から、他県や自地域の医療現場における人手不足の現状や診療報酬改定等による厳しい病院経営の説明があるなど、意見・情報交換が行われた。

### (3) 医療従事者不足への対応 (山口県提出)

光永事務局長から、「昨年12月に会員に対し情報交換したい項目についてアンケートをとった結果、『医療従事者の不足への対応』が最も多かったので、『医療従事者の不足への対応』に関する2度目のアンケートを行った。12項目について『対応済』『検討中』『行わない』の三択で質問を行ったところ、うち5項目(※)について『検討中』と『行わない』を併せた割合が5割を超えた」と説明があった。続いて、具体策など

の自由回答に関し補足説明がなされた。

(※) 福利厚生の実、残業代の引き上げ、諸手当の引き上げ、デジタル活用による業務プロセス効率化、新規職員のキャリア養成支援

### (4) 令和5年度(第8回)病院研修会報告及び令和6年度(第9回)病院研修会について (福岡県提出)

壁村専務理事から最初に、「これまで主に病院幹部や医師を対象としてきた病院研修会について、令和5年度から福岡県看護協会会長にも企画立案を行う委員に就任してもらい、病院全体で取り組むべき内容を対象にした」と説明があった。続いて、業務の効率化をテーマとした令和5年度の病院研修会について、福岡県看護協会会長の講演、業務の効率化に関する4つの先駆的取組を紹介したシンポジウムなど具体的な内容の説明があった。

所定の議事を終了後、平副会長から活発な議論に謝意を表し、閉会した。

その後、別室において引き続き「懇親会」が開催された。活発な意見・情報交換がなされた後、次期開催県である岡山県病院協会重井会長から挨拶が行われ、盛会裏のうちに終了した。



# 病院薬剤師の出向仲介事業 について

公益社団法人福岡県病院協会 参与 後藤 渉  
公益社団法人福岡県薬剤師会 副会長

近年、薬剤師の従事先の偏在や地域偏在が問題となっており、特に病院薬剤師の不足が深刻視されています。この状況を改善するため、2024年度の診療報酬改定において、病棟薬剤業務に関する「薬剤業務向上加算」が新設されました。これは、チーム医療の推進と薬物治療の質の向上を目的とし、地域医療に係る業務の実践的な修得を含めた病院薬剤師の研修体制を整備した医療機関に適用されます。その取得要件の一つとして、基幹病院が自施設の薬剤師を他の医療機関へ出向させる体制の整備が求められています。

福岡県病院薬剤師会では昨年12月より、県内の病院を対象に薬剤師出向仲介事業を開始しました。具体的には、出向可能な病院と受け入れを希望する病院を募り、県病院薬剤師会が事務局として両者のマッチングを行います。また、福岡県の行政とも連携し、薬剤業務向上加算の算定が可能な仕組みとして運用する予定です。地方の中小病院や診療所では薬剤師の確保が難しく、医療サービスの質に影響を及ぼす懸念があります。この仲介事業により、薬剤師が不足している医療機関と地域の基幹病院との間で人材の融通が可能となり、地域全体の医療サービス向上が期待されます。出向の対象地域は、県内で病院薬剤師が不足している粕屋、宗像、朝倉、直方・鞍手、田川、京築の6カ所の二次医療圏です。

しかし、この事業の推進にはいくつかの課題

もあります。現在、出向元となる基幹病院は4つの大学病院を含め15病院に限られており、各病院の薬剤師充足状況は異なるため、すべての受け入れ希望に応じることは難しい状況です。また、出向する薬剤師の労働条件や待遇の調整も必要です。出向元と出向先の医療機関間で給与、勤務時間、福利厚生などの条件を明確にし、双方が納得できる合意を形成することが求められます。さらに、業務内容や責任範囲の明確化も重要です。出向先での具体的な業務や役割を事前に定め、業務の重複や責任の曖昧さを防ぐ必要があります。加えて、出向期間中の薬剤師のキャリア形成やスキルアップを支援する研修・教育プログラムの充実も課題として挙げられます。

他県では既に薬剤師出向に関する取り組みが進められています。例えば、広島県では病院薬剤師不足に対応するため、病院間の人材交流や在宅医療に参加する薬剤師の育成など、多角的な施策を実施しています。その結果、薬剤師不足の実態把握や病院薬剤師出向モデル事業の効果検証が行われ、一定の成果が報告されています。また、山口県では薬剤師確保対策として「やまぐち薬剤師ネット」を開設し、県内の薬局・医療機関の情報を一元的に発信するプラットフォームを構築しています。これにより、薬剤師の就労支援や人材マッチングが円滑に行われています。

これらの先行事例を踏まえ、福岡県における

薬剤師出向体制の推進には、以下の点が重要であると考えています。

1. **関係機関との連携強化**：県病院薬剤師会、県薬剤師会、行政機関、医療機関が密に連携し、情報共有と協力体制を築く。
2. **出向に関するガイドラインの策定**：出向に伴う労働条件、業務内容、責任範囲を明確に定め、関係者間の共通理解を促進する。
3. **出向者のキャリア支援**：出向期間中の薬剤師のキャリア形成やスキルアップを支援する研修・教育プログラムを整備する。これにより、出向が薬剤師の成長に

つながり、出向元・受け入れ先双方にとって有益な取り組みとなる。

4. **情報発信とマッチング支援**：県内の薬剤師不足状況や出向可能な医療機関の情報を一元的に管理し、発信するプラットフォームを構築し、効果的な人材マッチングを支援する。これにより、出向希望者と受け入れ先のニーズを的確に把握し、適切なマッチングを実現する。

これらの取り組みにより、福岡県内の医療機関間で薬剤師の柔軟な人材交流が促進され、地域連携が活発となり、医療の質がさらに向上することを期待しています。

## 医療・福祉、介護など全ての医療環境をサポートします

### サービス内容

- ・医療機器、医療器具、医療消耗品の販売
- ・病院給食に関連した業務用食材及び厨房器機等の販売
- ・病院、介護施設に関する工事及び物品の販売
- ・臨床検査・水質検査・検便検査から食中毒検査などの検査
- ・看板、チラシ、インターネット等を利用した広告作製

これまで培ったノウハウを生かし、開業前の構想～開業後の施設経営まで九州・沖縄の医療機関、介護施設などの経営を全力でサポートいたします。

## 有限会社 DMS

(ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号3F  
TEL:092-525-7666・7667 FAX:092-525-7668

福岡県精神科病院協同組合

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号2F  
TEL:092-521-0690 FAX:092-524-4632

## 就任のご挨拶

新人物

JCHO久留米総合病院  
院長 牛嶋 公生



令和6年4月より独立行政法人日本地域医療機能推進機構（JCHO）久留米総合病院の院長職を拝命いたしました牛嶋公生と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は久留米生まれ、久留米育ちで久留米大学医学部を卒業し久留米大学産婦人科学教室に入局いたしました。関連病院勤務や米国留学などを経て久留米大学産婦人科の主任教授として令和5年3月まで勤務し、同年4月より久留米総合病院に院長補佐として入職、翌年4月より院長となっております。大学在職中は婦人科腫瘍の診療を専門とし、主に婦人科がんの診療、研究に従事しておりました。

久留米総合病院は現在の場所に昭和21年より健康保険第一病院として開院し、昭和40年より永らく社会保険久留米第一病院という名称で市民に親しまれてまいりました。平成28年、全国の旧社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院が統合されてJCHOが設立され、全国57病院が改称、当院もJCHO久留米総合病院として再出発し、10年を経過しました。

現在、標榜診療科は21診療科、常勤医師31名、病院は急性期一般（看護体制 7対1）146床地域包括ケア8床で運用し、健康管理センター（検診部門）、介護老人保健施設（90床）を併設しています。平成25年より救急告知病院として24時間救急対応を行い、地域貢献をキャッチフレーズとして地域住民の多様なニーズに応え、安心で心の通った医療を提供するということを職員一同心

がけております。

当院は久留米市の中心部に位置しており、その歴史からも知名度は十分ですが、市内には久留米大学病院をはじめ200床以上のベッドを持つ病院が5か所も存在します。その中で生き残っていくためには当院独自の特色を出していく必要があります。

診療科の中では特に乳腺外科が田中名誉院長時代より国内有数の症例数を誇っており、がん化学療法が多施設共同試験への参加や形成外科医による乳房再建、リンパ浮腫セラピストの導入、そして緩和医療まで多職種チームによる集学的治療を完結しています。婦人科は子宮筋腫や卵巣嚢腫、骨盤臓器脱など多くの良性疾患を扱っています。大学病院との棲み分けができており、手術までの待機時間は短くなっています。整形外科では特に足関節の診断治療に優れており、スポーツ選手も多く受診されています。消化器外科も低侵襲手術を積極的に取り入れています。合併症を有する高齢者の手術も各分野の内科と共診し、安全に手術を行っています。

医師の働き方改革については、タスクシフト/タスクシェアがkey wordです。当院でも多くのコメディカルが積極的に特定行為への資格取得の取り組んでおり、医師の時間外労働の削減に取り組んでいます。今後ますます地域住民の健康の維持に病院を挙げて取り組む所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 就任のご挨拶

新  
人  
物

産業医科大学若松病院  
院長 平田 敬治



この度、2024年4月1日付で産業医科大学若松病院院長を拝命いたしました平田敬治と申します。紙面をお借りして本誌「ほすびたる」をご覧くださいませ皆様にご挨拶申し上げます。

まず、自己紹介させていただきます。私は「竹崎カニ」「カキ焼き街道」「太良ミカン」で有名(?)な佐賀県太良町で生まれ、長崎の青雲高校卒業後、1981年産業医科大学の第4期生として入学しました。卒業後、沖縄県立中部病院で2年間の卒後臨床研修を修了、1989年に産業医科大学第1外科学講座初代教授の大里敬一先生にお誘いいただき、同講座に入局しました。大学院での学位取得の後に、二代目教授伊藤英明先生のご厚意でYale大学に二度の留学の機会をいただきました。第1外科では、消化器外科を中心に、特に大腸癌・遺伝性大腸癌・炎症性腸疾患に特化した診療を行ってきました。2009年から福岡山王病院に赴任しておりましたが、縁あって2015年に母教室に戻る事となりました。私は産業医科大学若松病院を高さから見守ってくれています「若戸大橋」と同い年の1962年生まれで、生後間もない自分を抱えて両親・祖父母が東洋一の大吊り橋開通記念に訪れたそうで、若松病院への赴任も何かしらのご縁を感じております。

その若松病院は、1891年(明治24年)に開設された遠賀郡立若松分院が前身で、その後北九州市立若松病院として長きにわたり地域の中核的病院の機能を果たし、2011年(平成23年)には産業医科大学若松病院として引き続き地域に密着した診療を行っております。当院は「多様性」を持った病院です。非常に専門領域に特化した診療科もあれば、全診療科をあげた産業医科大学病院の支援、そして当院の最も重要な使命と考えておりますのが、若松医師会を中心とした地域医療機関との連携にもとづく地域医療構想を念頭に置いた地域中核病院としての機能です。中規模総合病院ならではの「Hospital、ホスピタル」の語源とも言われる「Hospitality、ホスピタリティ」あふれる病院を目指して、病院全職員をあげて地域住民の皆様への医療サービス向上に努めてまいりたいと思っております。

福岡病院協会の皆さまにおかれましては、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 福岡大学病院のこれから

福岡大学病院  
病院長

三浦 伸一郎

福岡県病院協会機関紙「ほすびたる」へ寄稿の機会をいただきましたので紙面をお借りして当院をご紹介したいと思います。

福岡大学病院は1972年福岡大学医学部開設に伴い前身である九電病院を引き継ぎ1973年に開設されました。当院は2023年に50周年を迎え、この期間を支えた旧本館は役割を終え、2024年5月7日に新本館（以下「本館」という）が中央棟南側に開院しました。

本館は地下1階、地上12階で屋上にヘリポートを備えており、総病床数は中央棟と合わせて771床を有しています。大学病院としてハード面の機能をさらに充実させるとともに、安全で快適さと安らぎを提供できるようやさしい病院づくりに努めています。

本館の開院に伴い、2024年4月にERセンターを設立し、救命救急センターや集中治療室と共に、救急患者をスムーズに受け入れるため密に連携し救急医療の充実を図っています。救急車からの要請は2次救急として受け入れ、高度治療が必要になった際には3次救急に切り替えて迅速に治療を行っています。昼間は総合診療科が、夜間・休日は多くの診療科がローテーションで診療をして、福岡市の救急搬送の増加に当院も対応できるよう病院全体で取り組んでいます。

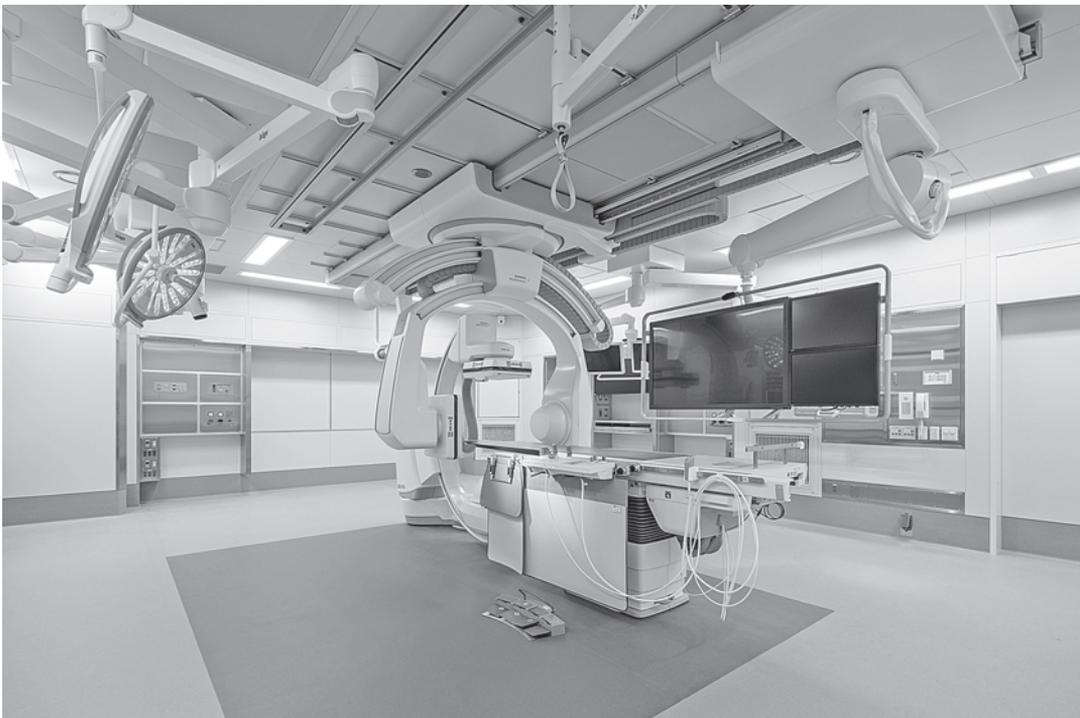
ヘリポートを屋上に設置したことで広域からの受け入れが可能になりました。ヘリポートへ到着後は本館内にある救命救急センターへ緊急用エレベーターで直接搬送することができ、今回のリニューアルで迅速な対応が可能となり、救命につながることを期待できます。



外観北東面



病棟カンファレンス室



3階ハイブリッド手術室

手術室は14室から18室へ（ロボット手術室4室、ハイブリッド手術室2室含む）、将来的には20室まで増設して受け入れ体制を強化していく予定です。また当院は、特定機能病院として、これまでも高度医療（検査・診断・治療）の提供を実践してまいりました。本館の開院に合わせて、最新機種（daVinci Xi）を用いたロボット支援手術、肺移植、角膜移植、腎移植など臓器移植治療や膵島移植など再生移植等の移植医療、低侵襲心血管カテーテル治療（ステントグラフト内挿術、経カテーテル大動脈弁置換術、経皮的僧帽弁クリップ術）など、高精度放射線治療機器等の最先端治療を再整備しています。集中治療室はGICU 4床から10床、EICU 10床から12床へ増床し充実を図りました。

内科と外科が連携し、呼吸器、消化器、泌尿器、婦人科などさまざまな分野で手術支援ロボットを活用しています。多くの症例数を手がけることで実績を積み、全国からロボット手術の習得を目指す医師の育成にも力を入れています。本館の各病棟に設けているカンファレンス室はガラス張りで開放感があり、教育施設として次世代を担う人材の育成や職員交流の場として活用することができます。

当院の特徴でもある総合周産期母子医療センターは産科部門・新生児小児部門・新生児外科部門の大きく3つの部門の連携から成り立っており、各診療科が協力して診療にあたっています。本館完成を機にNICU 15床から24床へ増床し、スタッフの人数から見ても西日本屈指の規模として機能を充実させ再スタートしました。何らかの疾患を抱える新生児や低出生体重の新生児への対応だけでなく、困難な出産が見込まれるハイリスク妊婦の方にも安全に出産ができるよう尽力しています。

一般病棟は今までの6床室から4床室にして空間を広くしました。病室は1床室とともに入院中の患者さんが快適に過ごせるよう、腰壁を50cmに設定し窓を大きくしたことでベッドに横になったまま外の景色が眺められます。また入院中の食事でも楽しんでいただけるようニュークックチル方式を取り入れ温かいまま提供できるなど、療養環境も向上しました。

災害拠点病院として大規模災害における高度先進医療の機能を維持するため、地震、断水、停電、火災などのあらゆる災害に強い病院を作りました。免震化に加え、非常食の備蓄場所の設置や災害時に患者さんをまず集めるトリアージポストの設定など災害拠点病院としての機能性を高めています。また、新型コロナウイルス感染症の発生時にはいち早く患者の受け入れを開始しました。今回のパンデミックから得た知見を活かし、今後起こりうる新興感染症への対策も本館建設に反映しました。各病棟に陰圧室を設け一般病棟での受け入れが可能になり、呼吸器系の病棟では病棟全体を陰圧に切り替えることができ、パンデミック発生時には日常的な運用から有事の運用に切り替えることができます。その他、手術室や集中治療室、透析室にも陰圧室を設けています。

本館1階の中央ロビーにはシンボルとなるツリーをイメージしたモニュメントがあります。来院された患者さんやそのご家族にとって憩いの空間になればとの思いを込めています。大学病院として高度医療を提供することはもちろんですが、地域に密着した医療提供が必要だと思っています。「あたたかい医療」のもと患者さんの心に寄り添った診療を第一に考え、これからも進化していきたいと思っています。

# 研修医教育の現場から —主体的に学べる環境づくりを目指して—

久留米大学病院 副院長  
(呼吸器外科教授) 光岡 正浩

## 【はじめに】

近年、初期臨床研修制度の見直しや医師の働き方改革が進められる中で、研修医の教育環境にも大きな変化が生じている。勤務時間の管理が厳格化され、ワークライフバランスの重視が求められる一方で、臨床経験の機会をいかに確保するかが課題となっている。私自身、呼吸器外科医として初期臨床研修医（以下研修医）と接する機会が多く、日々の診療や教育の場面でさまざまなことを感じている。特に、大学病院と外病院の特性を活かしつつ、研修医にとってより良い学びの環境を整えることの重要性を強く実感している。

本稿では、研修医との関わりを通じて考えたこと、そして研修の質を維持しながら主体的に学べる環境を作るための課題について述べる。また、地域医療を担う大学病院としての役割や、新たに導入した Urgent Care Team についても紹介し、研修医教育の今後の展望を考察したい。

## 【研修医と接して思うこと】

私は、日常診療において、その開始と終了を明確にすることが重要だと考えている。朝の回診では、一堂に会してまず電子カルテを閲覧し、入院患者の状況と当日やるべきことを確認したうえで病室を回る。これが一日のスタートである。そして、夕方の回診でその日の経過を確認して診療を締めくくる。これは昔から続く、いわば臨床の基本である。しかし実際の医療現場では、管理職は会議に追われ、スタッフは働き方改革の影響でシフト

勤務を強いられ、さらに定例手術が長引くことも多く、特に夕方回診では集まる人数に限られる。また、外科・内科・放射線科などが合同で行うカンファレンスは、指導医・専攻医・研修医・学生それぞれにとって、診療・教育・研究の発展に欠かせない場であり、極めて重要である。研修医には、毎朝の回診と週1回の合同カンファレンスを大切にしてほしいと考えているが、限られた時間の中でこれらをこなすのは決して容易ではない。



私は呼吸器外科に所属しているが、手術患者の搬入は 8:15 に行われるため朝の回診は 7:30 に開始する。また呼吸器合同カンファレンスは、各科が集まりやすい時間帯を考慮して毎週水曜日の 17:00 ～ に設定している。しかし、研修医にとって最も重要な場面の多くが時間外勤務となるのである。本来は、朝回診の準備、合同カンファレンスの準備、そして術後管理こそが、研修医にとっての大きな学びの機会のはずである。研修医の中には外科に興味を持つ者もいれば、そうでない者もいる。また、勤務時間を厳密に守るべきかどうかについての考え方も個々で異なる。こうした背景から、時間外の参加は強制できず、希望者のみの自主参加とせざるを得ない。そして、不本意ながら時間になれば帰宅を促すことが常態化してきた。

この5年間、2週ごとにクリニカルクラークシップの総括で各班の学生と接している。その中で、「大学病院よりも外病院の方がさまざまな経験が

積めるうえに給与が良いので、外病院を選びたい」という声を多く聞いてきた。また、「医師免許を取得してからの2年間は、がむしゃらに頑張れる病院で働きたい」と考える学生も少なくない。一部の指導医からは、「今の若い医師は、給与・休暇・勤務時間（いわゆる現代の3K）を最優先に研修先を選ぶ」という意見もある。しかし、それよりも「たとえ昔ながらの3K（きつい・きたない・きけん）が伴っても、充実した臨床経験を積めること」に魅力を感じる若者が多いことに、私は救われる思いがする。彼らのモチベーションを高く維持するために、我々指導医はもっと工夫しないといけないのかもしれない。研修医にとって、手技をできるだけ早く、多く経験することは重要である。しかし、それと同じくらい、合同カンファレンスで多くの専門家から知識を学び、プレゼンテーション能力を鍛えることも大切である。

指導する立場としては、ブラックな環境と見なされないように、また臨床研修センターの指導方針にも配慮し、早朝の回診前情報収集を強制せず、夕方には手術の途中であっても研修医を帰宅させるよう努めている。しかし、この「配慮」が過度になり、研修の質が低下することは避けなければならない。最後まで手術に付きたい研修医や、カンファレンスで鍛えられたい研修医には、自由に学べる環境を与えることが重要だ。それによって、モチベーションの高い研修医が集まり、質の高い教育が実現するのだと思う。過度な気配りは、教育の質を損なう。研修医自身が主体的に学びたいと思える環境を維持することが、私たち指導医の責務である。

## 【地域医療体制における久留米大学の役割】

国において、医師偏在の是正のため、医師多数県から少数県へ医師を回す対策がとられている。久留米大学は、県南部の広域な医療圏を担う重要な役割を果たしている。県南部には山間部や人口

減少が進む市町村が多く、高齢化は住民のみならず医師の間でも進行している。このような地域への医師派遣は不可欠であるにもかかわらず、医師多数県に属していることを理由に大学病院の定員が削減されると困難な状況を招くことになりかねない。大学病院の人員が充実してこそ、これらの地域に安定的に医師を派遣することが可能となる。当院では、研修医が診療の戦力として重要であり、その後の専攻医の確保にも直結するため、研修医の安定的な確保は極めて重要だと考えている。

## 【当院で新設したUrgent Care Team】

2024年6月より、久留米大学病院では新たな院内当直体制“Urgent Care Team”（UCT）を導入した。これは、夜間・休日のRRS（Rapid Response System）コール対応と病棟業務の一部代行を主な業務とし、各診療科から医師を派遣してもらっている。そして2025年1月からUCTに研修医の導入を開始し、上級医のもとでRRSコール対応や病棟業務代行を行うことになった。これにより、大学病院研修ではこれまで経験の少なかった初期対応の実践が可能となり、さらにe-learningを活用した教育体制も整備した。この取り組みはまだ始まったばかりであるが、研修医の教育機会の拡充と、各科当直医の負担軽減・院内当直医師数の削減の両立が期待されている。今後も、研修医が主体的に学べる環境づくりを目指していきたい。

## 【おわりに】

研修医の本質は今も昔も変わらず、医師国家試験をパスした直後は、とにかく現場で必死に働き、もがきながら多くのことを学びたいと考えている研修医が多いことを願う。彼らのために学びの場を充実させることは、未来の医療を支える上で欠かせない。今後も、研修医が主体的に学び、質の高い臨床経験を積める環境を整えるために尽力したい。

# 当院における多職種による 診療記録質的監査の変遷

国立病院機構九州医療センター  
診療情報管理士 皆元 麻里加

## 1 電子カルテ導入前の診療記録質的監査

当院の多職種による質的監査の歴史は電子カルテ導入前の紙の診療記録の時代にさかのぼる。各病棟で10例症例を医師、看護師が紙の診療記録を監査項目に沿って監査し、監査結果を診療情報管理室へ提出。監査した診療記録の表紙には「監査 ○年○月○日」の印鑑を診療記録へ押印し、病棟から返納されるため、どの患者が監査を行われていたか一目でわかるようになっていた。その患者の記録を再度診療情報管理士も監査するという流れになっていたが、コメディカルスタッフの介入はなかった。

## 2 電子カルテ導入後の監査体制変更

電子カルテ導入後は大幅に診療情報管理室の体制が変わり、質的監査の方法や監査項目の見直しがされた。1年に2回、2週間ほどの監査期間を設け期間内に質的監査を行うこととし、各病棟で医師2名、看護師2～3名、病棟配置診療情報管理士1名で監査チームを編成。診療情報管理室がランダムで選択した診療記録を監査する体制へ変更した。この方法は実際に診療にあたる医師や、看護にあたる病棟看護師が監査を行うため、記載が必要な項目について再認識していただく機会にもなり、「勉強になった。」「記載する際には気を付ける。」という声もいただき、病院全体で記録の質向上に取り組める機会となった。年間60症例の質的監査を行っていたが、2019年に受審した病院機能評価（一般病院2 3rdG: Ver.2.0）の「2.1.2: 診療記録を適切に記載している」の項目では、適切に取り組まれている点として「診療記録の質的点検は診療情報管理センターにて行い、

結果は診療科にフィードバックしている。診療記録を適切に記載している。」と評価された部分もあったが「今後、多くの症例を対象に質的点検を行うことを期待する。」というコメントもあり、病床規模に対して症例数が少ないという指摘を受けた。なお、この際もコメディカルスタッフの介入はなかった。

## 3 “多職種による” 診療記録質的監査の開始

数年診療記録の質的監査を行ってきた中で問題点として「症例数が少ないこと」そして「多職種の質的監査ではないこと」、「毎回監査者が変わるため結果の判定が統一されていないこと」が挙げられた。そのため、更なる体制強化として監査体制の見直しを行うこととした。監査症例数を増やすため2か月に1回30症例を監査することとした。そうすることで年間180症例の監査が可能となった。監査者については診療記録委員会委員のコアメンバーで監査チームを編成し医師、看護師、診療情報管理士は従来通りであるが、コメディカルスタッフにも新たにチームに加えることとなった。また、1年間監査チームは同じメンバーであり、結果の判定も統一がされたものとなった。

## 4 まとめ

診療記録は適切に医療が提供されているか医療安全にも関わる重要なものであり、患者の気持ちの移り変わりを共有できるものでもある。多職種の診療記録質的監査を行うことは記録の質向上、そして医療の質向上にもつながるものと考え。今後も多職種の診療記録質的監査を継続し更なる診療記録の質向上に努めたい。

# 看護 の窓

## 看護補助者と看護師が協働を 進めるための取組み

### ～エスコートチームの発足と活動～

済生会福岡総合病院 看護部 看護課長 佐伯 ひろみ

#### 新たな看護補助者の働き方 「エスコートチーム」の発足

看護師と協働することの多い職種 No.1 が「看護補助者」です。医師・看護師同様、人員不足が社会問題となっており、当院でも看護補助者の確保と定着に取り組んでいます。看護補助者と看護師は協働し支援しあう仲間であり、当院では看護補助者へ敬意を込めて「ナースエイド」と呼んでいます。

筆者はナースエイドを担当する看護課長として看護部に所属しています。主な業務は看護補助者と看護師が安全に協働できる環境づくりとナースエイドの育成等、組織横断的に活動しています。

昨年度より取り組み始めたのがナースエイド業務を細分化した「エスコートチーム」です。エスコートチームには、移送業務を専門に行う「エスコートスタッフ（写真1）」、ベッド清掃を専門に行う「ベッドメイクスタッフ（写真2）」が所属しています。どちらのスタッフにも共通することは、患者さんへの身体介護を行わない業務という

ことです。ナースエイドの募集をすると、「身体ケアには不安があるけれど病院や患者の役に立つ仕事がしたい」という思いを持つ方の存在が多いことがわかりました。そこで、新たなナースエイドの働き方として「エスコートチーム」が発足しました。

エスコートスタッフ業務	ベッドメイクスタッフ業務
<ul style="list-style-type: none"><li>移送業務（付き添い歩行、車椅子、ストレッチャー等）</li><li>お買い物代行</li><li>ユニフォームやリネン等の整理</li><li>医療機器や注射カートの等の運搬</li><li>環境整備や備品補充等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>退院後のベッド清掃</li><li>リネンの整理や補充等</li><li>環境整備や備品補充等</li></ul>

#### エスコートチームの活動による効果

検査室や透析室への移送の待ち時間短縮が挙げられます。これまでは検査終了後、病棟スタッフが来るまで検査室の前で待たなければなりませんでした。エスコートスタッフが速やかに病棟へ送り届けることで、患者さんをお待たせすることがなくなりました。検査室前の混雑緩和や検査室スタッフの負担軽減につながっています。また、退院や転出後のベッド清掃をベッドメイクスタッフが速やかに行うことで、入院や転入の受け入れ準備がスムーズになりました。

エスコートスタッフに業務について聞いてみると「何気ない会話を通して患者さんの緊張がほぐれていく様子や人生のエピソードを笑顔で語られる様子にやりがいを感じています」と話してくれました。

ナースエイド担当の看護課長として、患者さんの笑顔を励みに、安全で快適な療養環境の整備に取り組んでいきたいと思っています。



写真1  
エスコートスタッフ



写真2 ベッドメイクスタッフ

## 三十年という歲月

国立病院機構九州医療センター 名誉院長 朔元 則  
学校法人原学園看護専門学校 顧問

### 十年一昔、十年一日の如し

東日本大震災から10年が経過した2021年（令和3年）5月号のLetterでは、「十年一昔」と「十年一日の如し」という二つの言葉をキーワードに文章を書かせていただいた。本稿の執筆を開始した2025年1月は、阪神・淡路大震災から丁度30年という節目の年になるので、「医学・医療の歴史物語」はお休みにして、30年という歲月の流れについて思うところを書かせていただきたい。

### 1995年（平成7年）1月17日

地震多発国日本では地震が一度も発生しなかった年など無いのではないかと思うが、明治以降の近代日本において大地震と呼称されるのは、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災、1995年（平成7年）1月17日の阪神・淡路大震災、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災の三つだけということである。関東大震災（マグニチュード7.9、死者9万1344人）については、私が生まれる前の出来事で何も語ることはできないが、後の二つの地震については今も鮮明に記憶している。

阪神・淡路大震災が発生した1995年当時の私は、その前年に開院したばかりの国立病院九州医療センターの外科医長の任にあり、週日は午前6時に起床、7時には自分で運転する車で家を出るという毎日であった。

1995年1月17日は火曜日で、午前8時から病棟での早朝カンファレンスとそれに引き続いての外来診療、午後は附属看護学校の講義というスケジュールが組まれており、昼食時に早朝5時46分に関西で大地震が発生したというニュースは耳に入っていたものの、その詳細については知る

由もなかった。帰宅後、夜9時のNHKニュースを見ながらの遅い夕食を摂る時になって、初めて阪神高速道路が崩壊するなどの凄まじい被害の実態を知り驚いた次第である。

九州に生活の拠点を置かれていた人達の、この日の思い出は私と大同小異のものではないかと思うが、関西地方の方々にとってはたとえ直接の被害を免れてはいても、その思い出は強烈であろう。私の長男は早稲田大学政経学部卒業後総合商社丸紅に入社して2年目の時期で、大阪本社へ出向中であった。大きな揺れと共に就寝中の頭のすぐ傍らにテレビが転げ落ちてきたと語っている。もしも頭部に直撃を受けておれば大変なことになっていたことだろうと、直接被害がなかった幸運に感謝している。

1月20日発刊の産経新聞によると、この大地震の第1報が時の村山富市首相に報告されたのは、発生から2時間後のことであったということである。就寝中の老齢の首相（とは言っても当時70歳）を慮ってのことであろうが、当時の内閣官房の危機意識の薄さに驚かされる。五十嵐広三官房長官に至ってはテレビニュースで初めて知ったということである。

### 地下鉄サリン事件

1995年という年は、阪神・淡路大震災だけでなく後世に語り継がれる様々な事件が起こった年でもあった。

3月20日（月曜日）の午前8時頃、営業運転中の東京営団地下鉄丸ノ内、日比谷線の車中で、化学兵器として使用される神経毒ガスであるサリンが大量にばらまかれるという日本史に残る無差別テロ事件が発生した。乗客、駅員11名（その後の関連死を含めると計14名）が死亡し、約

6300人が負傷するという世界でも稀な事件である。犯人はオカルト新興宗教教団オウム真理教の麻原彰晃（本名松本智津夫）教祖以下の総勢20名にも及ぶ信者達であった。犯行の目的は、それまでにオウム真理教が犯していた様々な犯罪の捜査を攪乱するために、首都圏に大混乱を引き起こすことであった。

3月22日、警視庁が山梨県上九一色村<sup>かみくいしきむら</sup>に建設されていた教団施設を強制捜査、教祖の麻原以下の教団幹部達が逮捕された。逮捕者の中にはサリン開発に関わった筑波大学大学院化学研究科卒の土谷正美ほか、高学歴の能力ある若者達が多数含まれていた。主犯格の10名に対しては死刑の判決が下され、麻原、土谷に対しては2018年7月6日に絞首刑が執行された。

1995年4月の統一地方選挙では、青島幸男東京都知事、横山ノック大阪府知事が誕生している。何の政治的実績も持たない凡庸な人物が大都市の首長の座につくなど、平成7年という年はある意味では、異常な年であったと言えるかも知れない。

## 失われた30年？

昨今の新聞・テレビでよく見聞きする言葉に「失われた30年」という言葉がある。1989年（平成元年）11月にベルリンの壁が崩壊し、旧共産圏諸国は資本主義経済へ移行。成長する世界経済とは裏腹に日本経済は伸び悩み、米国に次いで世界第2位まで上り詰めていたGDP（国内総生産）は中国、ドイツに追い抜かれて第4位に転落。国民一人当たりのGDPはG7の7ヶ国間では最下位、OECD加盟38ヶ国中21位という日本の現状を表現する言葉なのだそうだ。

私自身が経済界の人間ではないためかも知れないが、私はこの「失われた30年」という言葉を見聞きする度に強い違和感を感じる。国や社会を構成する要因として評価されるのは経済だけではない。この30年の間に日本の文化や科学そして国民の幸福感は失われたのか？ そんなことはないと思っている。

米国は日本の約6.5倍、中国は約4.3倍のGDP

を誇る経済大国であることは確かである。しかし米国は家計資産の約3割を上位1%の家が占める分断国家である。この米国の所得格差と社会分断傾向はトランプ大統領の登場で益々拡大していくことであろう。共産党一党独裁の中国の様々な問題点については今更語る必要もない。

人は働くことで幸せになり、尊敬される存在になるのである。「失われた30年」という言葉を見聞きする度に、私は経済の価値観に偏重する日本のマスメディアの論調に強い違和感を抱かざるを得ないのである。

## 九州医療センターの30年

抽象的な30年談義はさて置き、九州医療センターの30年について語ってみたい。国立病院九州医療センターは今から31年前の1994年（平成6年）7月1日に開設された。九州全域を診療圏とする高度先進医療と、臨床研究、医療従事者に対する教育、研修に指導的立場を堅持していくことを目的として、国立福岡中央病院と国立久留米病院を合併するという形で福岡市地行浜の地に新設された病院である。

開院時の病床数は700床（一般病棟650床、精神科病棟50床）。院長・副院長職には国立福岡中央病院から引き続いて、徳永皓一院長（昭和30年九大卒、心臓外科）、故鴛海良彦副院長（昭和34年九大卒、放射線科）が、臨床研究部長には久留米病院の吉田晃治副院長（昭和38年久留米大卒、外科）が就任された。定員医師数は84名（出身母教室は九大63名、久留米大20名、福大1名）、職員総数は賃金職員等の定員外職員を含めて約700名という、大学附属病院に次ぐ大規模病院であった。

開院10年後の2004年4月、小泉純一郎政権が進めた大規模な行政改革によって、国立病院は独立行政法人機構へと移管された。独立採算制となって国家公務員総定数法の縛りから解放され、業績さえ良ければ人員増加が可能となったのである。

開院以来30年が経過した2024年9月1日現在の国立病院機構九州医療センターの医師数は、定

員医師 177 名、レジデント 60 名、臨床研修医 57 名、非常勤医師 4 名の計 298 名である。30 年前と比較して医師定員が 2 倍増となっている。その他の職種も看護師 785 名、医療職Ⅱ 168 名で、総従業員数も 1481 名と開院時の約 2 倍に増加している。

病床数は開院時と比較して感染症病床 2 床が増加しただけの 702 床であり、外来患者総数(新患、再来の総和)も平成 7 年度の 19 万 707 名に対し令和 5 年度が 21 万 7435 名と微増しているに過ぎない。この数値から言えることは、この 30 年間で医療が如何に高度化・複雑化してきたかということであろう。

病院長は現在の岩崎浩己院長が第 8 代目、事務部長は 15 代目、看護部長は 11 代目である。この 30 年間の退職者を含めた病院の総従業員数が何人になるのか知らないが、多分 1 万人は超えるであろう。多くの人々に支えられて九州医療センターが益々繁栄していることを嬉しく思っている。九州医療センターの 30 年は失われた 30 年ではなく、発展し続けてきた 30 年と言えよう。

## 権力の座の 30 年

壺フジ 式トラ 参キャベツ。令和 7 年の 1 月を賑わした話題を表現するのにこの言葉はどうであろう。茄子ではなくキャベツに代表される野菜の値段や米価の高騰はさて置くとしても、1 月 17 日と 27 日に国民をテレビの前に釘付けにしたフジテレビの不祥事の話と、1 月 20 日の就任式当日にこれ見よがしに数々の大統領令に署名して前任のバイデン大統領の政策を反故にしてしまったトランプ大統領の姿は、日本国民の記憶にいつまでも残ることであろう。

フジテレビの不祥事は、今年 87 歳になる日枝久相談役兼取締役が 1988 年(昭和 63 年)の社長就任以来 35 年余の長さに亘って人事権を掌握し続けてきたことに遠因があるという説が専らである。どんなに優秀な人物でも 30 年以上権力の頂点に座り続けると、周囲を固めるのがすべて所謂側近と表現される人物になってしまい、「裸の王

様」になってしまうものである。

アメリカ大統領は法律によって同一人物が 2 期 8 年以上その座に就くことを禁じているので(例外は第二次世界大戦中のルーズベルト大統領のみ)、大統領の専横によって国が減ってしまったというような歴史はない。日本にはそのような法律はないが、初代伊藤博文首相以降、現在の石破茂首相までの計 65 名の総理大臣の中で、在任期間が一番長かったのは意外にも安倍晋三首相の約 8 年 9 ヶ月、次が第 11、13、15 代の桂太郎首相の計約 8 年 1 ヶ月であった。

この 30 年間に限って見てみると、アメリカでは第 42 代クリントン大統領(在位 1993 年～2001 年)からバイデン大統領(在位 2021 年～2025 年)までの 5 名が大統領に、日本では第 81 代村山首相(在位 1994 年～1996 年)から現在の石破首相まで計 14 名が首相の座に就いている。

「同一人物が大統領や首相の地位に留まるのは何年くらいまでが最適なのか?」と問われればいろいろな意見があると思うが、私はアメリカ大統領の 8 年という長さ制限は極めて適切ではないかと考えている。

専制主義国家と言われる国々の状況はどうなのであろう。ロシアのプーチン大統領は 2000 年に大統領に就任している。当時のロシアの憲法ではアメリカ同様連続 2 期までしか大統領職を続けることができなかったので、2008 年になると側近のメドベージェフを大統領に仕立てて自分自身は首相に就任。2012 年に大統領に再任されると憲法を改正(改悪)して、2036 年まで大統領職にとどまることが出来るようにしてしまった。権力を掌握して既に 24 年余の歳月が流れた現在、国際条約を無視してウクライナに侵攻中である。

中国の習近平国家主席は、2012 年に主席の座に就任したが、2018 年になってそれまでの国家主席は 2 期 10 年までという憲法を撤廃している。現在 71 歳であるが、健康状態が続く限り(多分死ぬまで)権力の座に居座り続けるつもりであろう。権力掌握後 30 年となる 2040 年頃の台湾の政治情勢が憂慮される。

## スポーツの世界の30年

2025年の野球界の大きな話題は、1月21日（日本時間22日）イチロー選手が長い歴史と高い格を誇る米国野球界で日本人としては初の殿堂入りを果たしたニュースであろう。

イチロー選手は1992年にオリックスに入団、1994年から7年連続で首位打者となり、2000年オフに米大リーグ（MLB）マリナーズに移籍した。移籍1年目にMLBの最優秀選手に輝き、2004年にはMLBの年間最多安打記録を84年振りに更新している。2019年に引退したが、日米通算安打数は4367本であった。プロ野球選手として頭角を現し始めてから、31年を経過して最高の栄誉である殿堂入りを成し遂げたことになる。日本人プレイヤーのMLB参入の先駆けとなった野茂英雄選手が、MLBの新人賞を獲得したのも30年前の1995年のことであった。

昨シーズン大活躍したのがドジャースの大谷翔平選手である。MLB初となる50-50（50以上のホームランと盗塁）を達成し、最優秀選手賞を獲得した。彼が生まれたのは1994年7月5日、イチロー選手が日本プロ野球界で活躍し始めた年である。プロ野球界にデビューした2013年から30年が経過する2043年頃には、イチロー選手に次いで日本人では2人目となるMLBの殿堂入りを果たして欲しいものである。

今年1月のスポーツ界のもう一つの話は、大関豊昇龍が初場所で優勝し、第74代の横綱に昇進したことであろう。この30年間の大相撲の動向について調べてみると、1995年に横綱の地位に就いていたのはハワイ出身の第64代横綱曙である。当時活躍していたのが若乃花・貴乃花の所謂若貴兄弟で、1995年11月の九州場所では兄弟による優勝決定戦が行われている。横綱への昇進は弟の貴乃花が先で第65代横綱が貴乃花、第66代が若乃花である。以後はハワイ出身の武蔵丸、モンゴル出身の朝青龍、白鵬、日馬富士、鶴竜と4代続けてモンゴル出身者が続き、第72代が久しぶりの日本人横綱稀勢の里、第73代から再

びモンゴル勢となり照ノ富士、豊昇龍と続いている。この30年間の横綱の出身地はモンゴル6名、日本3名、ハワイ2名である。

スポーツの世界は家柄や出身地を問わない実力だけの潔い世界であることは百も承知であるが、相撲は日本古来の神事の一面も持つスポーツである。品格ある日本人横綱の出現を待ち望んでいるのは私だけではないであろう。

## 人それぞれの30年

みそとせ 三十年へて きみと 訪ひたる えいこく の まなや  
思ふ かの 日々 の 夢

本年の宮中歌会始における雅子皇后の御製である。

悠久の時の流れから見れば30年という歳月はほんの一瞬の間に過ぎないかも知れない。しかし一人の人間にとっては30年という歳月はいかにも重い。

30年前の1995年には87名が健在であった九大医学部の同級生（1963年の卒業時は92名）は、2025年2月現在では48名となってしまった。一緒に九大第二外科教室に入局し、私にゴルフの手解きをしてくれた故犬尾修三君、筑紫丘ゴルフクラブでよく一緒にプレーした故清成秀康君（放射線科）など親友達を思い出すと今も涙が止まらない。

私自身は本稿執筆中に満86歳の誕生日と56回目の結婚記念日を妻や子供、孫達（男子2人、女子2人の計4人）と祝うことが出来た。週日には原看護専門学校で講義し、日曜日には第二外科教室の後輩たちとゴルフを楽しんでいる。ゴルフの成績は、1995年が19ラウンドで平均スコア105.1、2024年が28ラウンド（ゴールドティーからのスタートである）で106.8であった。相変わらずの下手なゴルフであるが、平均スコアがそれ程落ちていないということは嬉しい限りである。

あと何年この幸せを続けていくことが出来るかは「神のみぞ知る」であるが、本Letterは幸福感に包まれながら執筆させていただいた。冗長な思い出の記になってしまったことを御容赦いただきたい。

## 人体旅行記 乳房（その二十六）

国立病院機構都城医療センター 吉住 秀之  
院長

聖母から迸る母乳を飲むという鮮烈なイメージを表現した画家の想像力には驚きますが、日本文学においても一読するとびっくりして忘れられなくなる、母乳を口にする描写があります。三島由紀夫の『金閣寺』の一場面です。主人公の溝口は、友人の鶴川と南禅寺の楼上に登った際に、隣接する天授庵での信じがたい光景を目撃します。

女は姿勢を正したまま、俄に襟元をくつろげた。私の耳には固い帯裏から引き抜かれる絹の音がほとんどきこえた。白い胸があらわれた。私は息を呑んだ。女は白い豊かな乳房の片方を、あらわに自分の手でひきだした。

士官は深い暗い色の茶碗を捧げ持って、女の前へ膝行した。女は乳房を両手で揉むようにした。

私はそれを見たとは云わないが、暗い茶碗の内側に泡立っている驚いろの茶の中へ、白いあたたかい乳がほとぼしり、滴たりを残して納まるさま、静寂な茶のおもてがこの白い乳に濁って泡立つさまを、眼前に見るようになりありと感じたのである。

（三島由紀夫『金閣寺』、新潮文庫 p67）

静かに繰り広げられるエロティックな場面を覗き見するという設定に加え、抹茶の緑と乳汁の白の対比が鮮やかすぎて、抹茶ラテを飲んでいたら、むせ返してしまうところです。この士官はその後出征し戦死します。未亡人となった女性は、溝口の悪友柏木に抱かれていたことを彼は知ることになります。柏木に捨てられた未亡人の自宅に上がった溝口

の前で彼女は和服をほどき乳房を露わにするのですが、そのとき、

私には美は遅く来る。人よりも遅く、人が美と官能とを同時に見出すところよりも、はるかに後から来る。みるみる乳房は全体との聯関を取戻し、…肉を乗り越え、…不感のしかし不朽の物質になり、永遠につながるものになった。

私の言おうとしていることを察してもらいたい。又そこに金閣が出現した。というよりは、乳房が金閣に変貌したのである。

というこれまた驚愕の展開で、察してもらいたいといわれても文字を追う目がここで凍りつきます。事には至らず彼女の宅から辞したあとも、「心には乳房と金閣とが、かわるがわる去来し」、「無力な幸福感」が彼を満たしていたのでした。溝口にとって金閣寺は、乳房という欲望の対象に飲み込まれないようする防護壁のような役割を果たしていたのでしょうか。精神分析家のラカンのいう対象 a (objet petit a) の例と言えるのではないかと思います。2024年12月の報道によれば、三島は当初この小説の原題を『人間病』として構想していたということです<sup>1)</sup>。なるほどと頷かされますね。2025年は三島由紀夫の生誕100年に当たります。これを機会に未読の方は是非読んでみて下さい。

1) 本作の元になった金閣寺放火事件の犯人の精神病理学的考察については、精神科医の内海健による『金閣を焼かなければならぬ：林養賢と三島由紀夫』（河出文庫）があります。

## 映画と健康寿命 ～2025年を迎えて～

医療法人社団豊永会 飯塚記念病院  
作業療法士 平岡 敏幸

映画が好きだ。長年スクリーンで活躍する俳優たちを見ていると、彼らのエネルギッシュな姿に勇気をもらえる。アクションスターのトム・クルーズは62歳だが、なおもスタントなしでハードなシーンに挑み続けている。ジェイソン・ステイサムは還暦に手が届こうとしているが、その身体能力は衰えるどころか、ますます磨きがかかっているようにさえ思える。彼らと自分の年齢を比べてみると、同じ時間を生きているはずなのに、なぜこんなに違うのかと考えてしまう。

2025年問題の年がついにやってきた。団塊の世代が後期高齢者となり、日本の高齢化はますます進む。医療や介護の負担が増すことは避けられないが、ただ長く生きるのではなく、「健康に生きる」ことがより重要視される時代になった。健康寿命を延ばし、自立した生活を続けることが社会全体の課題となっている。

映画の世界でも、高齢の俳優たちが現役で活躍する姿が目立つ。80歳を超えても作品に出演し続けるクリント・イーストウッド(94歳)、70代になってもスタントに挑むリーアム・ニーソン。彼らの姿を見ていると、「歳をとったからできない」という固定観念は、案外、自分自身が作り出しているものではないかと思う。もちろん、彼らはプロフェッショナルであり、厳

しいトレーニングや食事管理を行ってはいらるだろう。しかし、日々の積み重ねがあれば、私たち一般人でも「年齢を理由に諦めない生き方」はできるのではないか。

作業療法士として日々、高齢の方々と関わるなかで感じるのは、「できることを続ける大切さ」だ。無理に若い頃のように動く必要はない。しかし、趣味を楽しみ、体を動かし、人と交流することで、心身の健康は確実に維持される。例えば、映画を観ること一つをとっても、ストーリーを理解し、感情を動かし、時には誰かと感想を語り合う。それだけでも脳の活性化につながる。

日本の平均寿命は世界トップクラスだが、健康寿命とのギャップが問題になっている。平均寿命が伸びても、介護が必要な期間が長ければ、本人にとっても家族にとっても負担が大きくなる。映画のように「カッコいい歳のとり方」をするには、日々の生活の積み重ねが重要だ。

今年、2025年問題の年を迎えた今だからこそ、改めて「自分はどの歳を重ねたいか」を考えてみるのもいいかもしれない。私は、映画館のスクリーンでエネルギッシュに活躍する俳優たちのように、年齢を重ねても好きなことを続け、健康的に生きる道を探っていきたい。



## ◎ 令和6年度 第10回理事会

日時 1月14日(火)午後4時(協会会議室)

議題

1. 会長あいさつ
2. 協議事項
  - (1) 会員異動について
  - (2) 研修会について
  - (3) 地域医療構想について
  - (4) 病院への緊急財政支援についての県への要望結果について
  - (5) その他
3. 報告事項
  - (1) 私設病院協会 (2) 看護学校 (3) 医療関連協業組合 (4) 全日病、日慢協、日医法人協 他連絡
  - (5) その他

## ◎ 事務長会運営委員会

日時 1月16日(木)午後3時(協会会議室)

1. 協議事項
  - (1) 働きやすい職場環境づくりについて
  - (2) 若手職員を中心とする離職対策について
  - (3) 広報関係について(ネット、SNSの活用及び広報担当部所等)
2. 報告事項

## ◎ 1月研修会(参加数 143名)

日時 1月30日(木)午後3時

場所 天神ビル11階 10号会議室

演題 「身体拘束・抑制ゼロに向けた取り組み」

講師 医療法人社団富家会 富家病院  
理事長 富家 隆樹 氏

## ◎ 看護部長会運営委員会

日時 2月7日(金)午後3時(協会会議室)

1. 協議事項
  - (1) 管理者教育にどのように取り組んでいるか
  - (2) 職場のハラスメント対策とメンタルヘルズ対策にどのように対応しているか
  - (3) 倫理的感受性をどのように養っていくか

(4) 令和7年度の協議事項について

(5) 令和6年度の振り返りについて

2. 報告事項

## ◎ 広報委員会

日時 2月12日(水)午後3時45分

場所 協会事務室

議題 1. 福私病ニュースの編集について  
2. その他

## ◎ 令和6年度 第11回理事会

日時 2月12日(水)午後4時(協会会議室)

議題

1. 会長あいさつ
2. 協議事項
  - (1) 会員異動について
  - (2) 研修会について
  - (3) 地域医療構想について
  - (4) 第12回(令和7年度)定時総会の開催について
  - (5) 令和7年度の副学校長人事について
  - (6) 事務職員及び教務職員の給料表の改定について
  - (7) 令和6年度決算見込み及び令和7年度事業計画・予算(案)について
  - (8) その他
3. 報告事項
  - (1) 私設病院協会 (2) 看護学校 (3) 医療関連協業組合 (4) 全日病、日慢協、日医法人協 他連絡
  - (5) その他

## ◎ 2月研修会(参加数 84名)

日時 2月15日(土)午後3時

場所 天神スカイホール メインホールB

演題 「今後の医療提供体制について ～食事提供の現状と課題を中心に～」

講師 (株)日本ヘルスケア総合研究所 上席研究員  
独協医科大学医学部 特任教授  
(元 厚生労働事務次官・元 内閣官房政策  
参与) 二川 一男 氏

## 第95回 理事会報告

日時 令和7年2月25日(火) 16:05～16:40

場所 福岡県医師会館 研修室3

(福岡市博多区博多駅南2-9-30)

出席者(敬称略)

会長 中村

副会長 平、三浦

理事 壁村専務理事、岩永総務理事、伊東財務理事、岩崎、大村、谷口(修)、津留、中尾、松浦、山下、横倉  
計14名(理事総数22名)

監事 野村、楠原

議長 岡嶋

副議長 樋口

顧問 河野、一宮

### I 行政等からの通知文書

壁村専務理事から、特に報告等を要するものはないとの報告があった。

### II 公益目的事業関係

#### 1 報告事項

##### (1) 各種委員会・研修会関係

###### 【開催結果】

ア 令和6年度診療情報管理研究研修会グループワーク

岩崎担当理事から、報告があった。

日時 令和7年1月21日(火)

14:00～17:00

場所 九州大学医学部百年講堂

参加者 20名

テーマ 「業務のお悩み解決の第一歩、みんなと一緒に進めましょう！」

カテゴリー

診療録全般、適時調査、病院機能評価、診療録監査等7カテゴリー

#### イ 第9回臨床検査研修会

壁村専務理事から、報告があった。

日時 令和7年1月25日(土)

13:25～16:30

会場 浜の町病院 3階研修講堂

開催形式 ハイブリッド開催

参加者 43名

テーマ 「災害、高齢化、そして働き方改革～臨床検査の新たな挑戦と求められる対応を考える～」

講演1 災害時医療の役割

～災害、テロ等含む～

講師：久留米大学病院 災害・危機管理担当 教授 山下 典雄

講演2 骨粗鬆症の予防、診断、治療

—多職種連携と地域連携の重要性—

講師：産業医科大学整形外科学教室

講師 塚本 学

講演3 タスク・シフト/シェアについて

～静脈路の確保～

##### ① タスク・シフト/シェアへの取り組み

～採血業務における静脈路確保～

福岡大学西新病院 臨床検査部

臨床検査技師 崎 敏子

##### ② 末梢静脈血管へのアクセス

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 MDS 事業部

Clinical Specialist・がん化学療法看護認定看護師 岩本 寿美代

※ 研修会終了後：会場にてトレーニング器具を使用した体験

#### 【開催予定】

ア 第9回病院研修会

壁村委員長から、説明があった。

日時 令和7年3月4日(火)

18:00～20:15(受付開始17:30～)

会場 九州大学医学部百年講堂 1階大ホール

申込者 82名 ※2/12時点。以下同じ  
テーマ 「医療従事者の人材確保  
ー現状と課題 そして対策ー

総合司会 公益社団法人福岡県病院協会  
専務理事 壁村 哲平

I 基調講演

(1) 「福岡県の医師・看護職員の確保策  
について」……………18:00～18:25

講師 福岡県保健医療介護部 医療指  
導課医師・看護職員確保対策  
室長 甲斐 庸恭<sup>つねやす</sup>

座長 公益社団法人福岡県病院協会  
専務理事 壁村 哲平

(2) 「薬剤師、MSW等医療関係職種の  
現状と課題」……………18:25～18:35

公益社団法人福岡県病院協会  
専務理事 壁村 哲平

II シンポジウム

「病院における先進的な取組の紹介」  
……………18:45～20:10

(1) 「医師だけにしかできない仕事に専  
念できる環境作り ～当院における  
診療看護師(NP)の活躍～」

社会医療法人財団白十字会白十字  
病院 病院長 瀧野 泰秀

(2) 「特定行為看護室設置に至った背景  
とその成果」

済生会福岡総合病院 副看護部長/  
特定行為看護師 三山 麻弓

(3) 「“病棟医/病院総合医”の育成と  
活用をめざして」

福岡県済生会二日市病院  
副院長 門上 俊明

(4) 「救急領域における病院救命士の有  
効活用について」

北九市立八幡病院  
名誉院長 伊藤 重彦

質疑応答

座長 地域医療機能推進機構 (JCHO)

九州病院 院長 内山 明彦  
済生会福岡総合病院  
看護部長 大嶋 由紀

イ 第65回診療情報管理研究研修会

岩崎担当理事から、説明があった。

日時 令和7年3月10日(月)  
13:00～17:00 (受付12:20～)

場所 九州大学医学部百年講堂

申込者 28名

テーマ 「医療DXを考える診療情報」

講演1 「医師・病院管理者からみた診療  
情報管理士への期待」

株式会社麻生飯塚病院  
院長 本村 健太

講演2 「3文書6情報からの医療DX」  
九州大学病院

病院長特任補佐 西山 謙

シンポジウム 「医療DXへのとりかかり  
～活用事例から考える～」

社会医療法人シマダ 嶋田病院  
診療支援部 部長 今村 知美

医療法人原三信病院 企画情報室  
システム管理課 課長 平原 俊吾

社会医療法人財団白十字会  
白十字病院 医療情報本部

システム開発室 主任 村上 真一  
医療法人順和長尾病院

診療情報管理室 主任 深見 知子

質疑応答

ウ 第21回リハビリテーション研修会

中尾担当理事から、説明があった。

日時 令和7年3月15日(土)  
13:55～16:00 (受付13:30～)

場所 ナースプラザ福岡 研修ホール

申込者 68名

テーマ 「リハビリテーション・栄養管理  
及び口腔管理の連携・推進をい

かに進めるか ～各病院・地域での取り組み～」

#### シンポジウム

- 講演1 「リハビリテーション・栄養・口腔の三位一体における管理栄養士の役割」  
産業医科大学若松病院  
管理栄養士 鈴木 達郎
- 講演2 「急性病院における多職種連携の取り組みの実際 ～歯科の立場から～」  
九州大学病院 医療技術部 歯科衛生室 歯科衛生士  
萱野 綾華
- 講演3 「急性期のリハビリテーションの栄養」  
飯塚病院 理学療法士  
白土 健吾
- 講演4 「リハビリ・栄養・口腔連携体制加算の現状報告 ～作業療法士の評価視点について」  
医療法人八女発心会姫野病院  
作業療法士 甲木 芳親
- 講演5 「急性期病院における言語聴覚士の取り組み」  
戸畑リハビリテーション病院  
言語聴覚士 大森 政美

#### 質疑応答

#### エ 第2回看護委員会

日時 令和7年2月20日(木)16:00～

場所 ナースプラザ福岡 204号室

#### 議題

1. 令和6年度看護研修会の反省
2. 令和7年度研修計画について

次のオと併せて山下担当理事から、説明があった。

#### オ 第172回看護研修会

山下担当理事から、説明があった。

日時 令和7年3月17日(月)

10:00～15:30

3月18日(火)9:00～16:30

場所 九州大学医学部百年講堂  
大ホール

参加者 190名

テーマ 認知症（認知症看護実践力向上研修）（診療報酬加算対象）

研修内容 認知症の原因疾患と病態・治療／入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術／コミュニケーションの方法及び療養環境の調整方法／行動・心理症状（BPSD）／認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援／在宅に向けた看護・介護連携、退院支援など

### Ⅲ 収益目的事業、法人関係

#### 1 報告事項

(1) 各種委員会・研修会関係

#### 【開催結果】

ア ほすびたる編集委員会

岡嶋編集委員長から、報告があった。

日時 令和7年1月14日(火)

場所 福岡県医師会館 2F 事務局及びWEB参加

#### 議題

1. 1月号の現況について
2. 3月号の編集計画について
3. 令和7年度表紙の色について
4. 令和7年度「ほすびたる」制作・出版契約について

イ 第28回四県病院協会連絡協議会

壁村専務理事から、報告があった。

日 時 令和7年1月24日(金)  
15:00～17:00  
場 所 ANA クラウンプラザホテル福岡  
3F ロータス  
参加者 27名(岡山5、広島5、山口4、  
福岡13)

ウ 令和6年度第1回経営管理研究会  
津留担当理事から、報告があった。

日 時 令和7年2月17日(月)  
13:55～16:00  
会 場 九州大学医学部百年講堂  
大ホール

参加者 132名  
講演1 「新しい地域医療の構想」  
講師 産業医科大学医学部公衆衛生学  
教授 松田 晋哉  
講演2 「診療報酬改定を受けての病院経営」  
講師 社会医療法人天神会  
総病院長 島 弘志

#### 【開催予定】

ア ほすびたる編集委員会

岡嶋編集委員長から、説明があった。  
日 時 令和7年3月11日(火)17:45～  
場 所 福岡県医師会館 2F 事務局  
(ほすびたる編集委員会はハイブ  
リッド)

議 題  
1. 5月号の編集計画について  
2. 令和7年度寄稿依頼について

イ 第124回医療事務研究会

伊東担当理事から、説明があった。

日 時 令和7年3月14日(金)  
13:30～16:10  
会 場 九州大学医学部百年講堂  
大ホール

申込者 83名

テーマⅠ 「人工知能はレセプトチェック  
の救世主！」

講演1 「北九州市立八幡病院の医療  
DXの取り組み ～AIレセ  
チェッカー導入報告」

講師 北九州市立八幡病院  
経営企画課長 木戸 啓介

講演2 「福岡和白病院の医療DXの取  
り組み ～レセプトAIチェッ  
ク～」

講師 福岡和白病院  
医事課長 光永 篤史

テーマⅡ 「審査」

講 演 「最新の審査方法とこれから  
の審査基準 ～審査の広域化と  
AIの導入、国保との審査基準  
の統一化～」

講師 社会保険診療報酬支払基金  
審査委員会審査調整役  
高木 誠一郎

質疑応答

(2) 第94回理事会議事録について  
壁村専務理事から、議事録署名人である  
会長、両監事の了承をもらっているとの  
説明があり、了承された。

(3) 11、12、1月収支報告について  
伊東財務理事から、報告があった。

(4) 会長及び業務執行理事の活動状況について  
壁村専務理事から、報告があった。

(5) 会員の変更について  
壁村専務理事から、報告があった。

嘉麻赤十字病院(嘉麻市)  
あべけんじ 前院長→はたえけん 院長  
安部 健司

医療法人寺沢病院（福岡市南区）  
寺澤<sup>てらさわ</sup>正壽<sup>まさひさ</sup> 前院長→寺澤<sup>まさあき</sup>正明<sup>まさあき</sup> 院長

(6) (一社) 福岡県医療法人協会主催「特別講演会」への名義後援依頼について

壁村専務理事から、五役会で検討を行い、名義後援を承認したとの報告があった。

(7) 第37回 (一社) 日本看護学校協議会学会の後援名義の使用許可申請について

壁村専務理事から、五役会で検討を行い、後援名義使用を許可したと報告があった。

(8) 令和7年度福岡県病院協会 理事会等日程について

壁村専務理事から、令和7年度の理事会等の予定について説明があった。

(9) 令和7年度の委員会活動について

壁村専務理事から、各種委員会は、近年その多くが秋以降に開催されているため、適切な会場の確保、日程調整が円滑に進まない問題や、募集期間も十分に確保できない等の問題が生じており、研修会の開催も2、3月に集中している。

このため、令和7年度から前年度末に各委員会で活動計画を立て、原則6月までに第1回委員会を開催、12月を目途に研修会（第2回以降、診療報酬改定関連研修を除く）を実施することにした。当該方針を各正副委員長に文書で伝え、3月中旬までに7年度計画案を提出してもらうよう依頼したと報告があった。

## 2 協議事項

(1) 臨時会員総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について

壁村専務理事から説明があり、次のとおり決定された。

1 日 時 令和7年3月25日(火)  
17:00～

2 場 所 福岡県中小企業振興センター  
501号室

3 議事に付すべき事項

第1号議案 令和7年度 福岡県病院協会事業計画について

第2号議案 令和7年度 福岡県病院協会収支予算について

(2) 退会届、入会申込書について

① 退会届

・病 院 名：医療法人済世会 河野病院

・会 員 名：理事長 河野 正美

・退会年月日：令和7年1月31日

・退 会 理 由：閉院のため

壁村専務理事から、退会届を受理したとの報告があった。

③ 入会申込書

・病 院 名：医療法人済世会  
河野名島病院

・入会申込者：理事長 河野 正美

・入 会 日：令和7年3月1日

壁村専務理事から説明があり、3月1日付けの入会が承認された。

## 3 行事予定

壁村専務理事から、説明があった。

(1) 令和7年3月

ア 第9回病院研修会

日 時 令和7年3月4日(火)  
17:55～20:15

会 場 九州大学医学部百年講堂  
大ホール

イ 第65回診療情報管理研究研修会

日 時 令和7年3月10日(月)  
12:20～17:00

会 場 九州大学医学部百年講堂

ウ ほすぴたる編集委員会・五役会  
 日 時 令和7年3月11日(火)  
 ① 17:45～ほすぴたる編集委員会  
 ② 18:00～五役会  
 場 所 福岡県医師会館事務局  
 (ほすぴたる編集委員会はハイブリッド)

エ 第124回医療事務研究会  
 日 時 令和7年3月14日(金)  
 13:30～  
 会 場 九州大学医学部百年講堂

オ 第21回リハビリテーション研修会  
 日 時 令和7年3月15日(土)  
 13:20～16:00  
 会 場 ナースプラザ福岡

カ 第172回看護研修会(認知症看護実践力  
 向上研修)延期分

日 時 令和7年3月17日(月)9:20～  
 令和7年3月18日(火)8:30～  
 会 場 九州大学医学部百年講堂

キ 第96回理事会・臨時会員総会  
 日 時 令和7年3月25日(火)  
 ① 16:30～理事会  
 ② 17:00～臨時会員総会  
 場 所 福岡県中小企業振興センター  
 501号室

#### 4 その他

一宮顧問から、現在各領域の課題について、医師会、関係団体、行政で共有し、再来年から始まる2040年に向けた新たな地域医療構想の検討を行っている。新たな地域医療構想では、病床機能だけでなく、医療機関機能の分類や在宅医療の強化、介護との連携のほか、精神医療体制確保等の実現に向け議論を行うとの報告があった。



一番大切な思いやり…  
**「安心・安全・清潔」**

**TAIYO 太陽セランドグループ**  
**太陽セランドホールディングス株式会社**  
 〒812-0044 福岡市博多区千代1-1-5  
 TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

**太陽セランド株式会社**  
 〒826-0042 福岡県田川市大字川宮1200  
 TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 社長 **中島 健介**

医療関連  
 サービスマーク認定

太陽セランドグループ会社  
 太陽セランドホールディングス株式会社 太陽セランド株式会社 太陽シルバーサービス株式会社 ジャパンエアマット株式会社 株式会社北九州シーアイシー研究所

お問い合わせ TEL 0947-44-1847 Mail [info@taiyoseland.co.jp](mailto:info@taiyoseland.co.jp) Web <http://www.taiyoseland.co.jp>

ほすぴたる 777号をお届けします。“7”が、3つ並んでいて、読む人に幸運をもたらすかもしれません。また、年度末のご多忙な時期に、原稿をお寄せいただきました著者の皆様には、心より御礼を申し上げます。

さて、最近の福岡市の中心部、天神の変貌ぶりはすごいですね。昔の懐かしい博多の面影はいずこに。なんて感傷に浸っていると、人の流れにぶつかりそうになります。ちょっと離れた、福岡市民会館も今年（令和7年）3月23日に閉館、61年の歴史にピリオドを打ちます。福岡市民会館には、多くの世界的な芸術家が訪れ、すばらしい演奏を聴かせてくれました。エリザベート・シュバルツコップ、フィッシャー・ディスカウ、ハンス・ホッターなど、当時の音楽界を代表する巨匠たちの演奏を聴くことができたのは本当

に幸せなことでした。ひとつ思い出深いコンサートがあります。アレクシス・ワイセンベルクという国際的ピアニストの演奏会でのことです。演奏が始まってしばらくすると、突然、ドーン！という爆発音が聞こえ、会場が騒然となりました。それが“花火”の音であることに気づくと、失笑が聞こえ始めました。花火は15分くらいつづいたのでしょうか。ワイセンベルクは花火が終わるまで待ち、演奏を再開しました。確か、どんたくの頃のことであったかと思います（not sureです）。お祭り好きの博多ならではのエピソードですね。福岡の皆さんの胸に、たくさんの思い出を残し、市民会館は幕を下ろします。さようなら、そしてありがとう、福岡市民会館。

（岡嶋泰一郎 記）

## ほすぴたる

第 777 号

令和7年3月20日発行

発行 ◎ (公社)福岡県病院協会

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号  
福岡県メディカルセンタービル 2F  
TEL092-436-2312 / FAX092-436-2313  
E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp  
URL <http://www.f-kenbyou.jp>

編集人 ◎ (公社)福岡県病院協会

制作 ◎ (株)梓書院

〒812-0044 福岡市博多区千代3-2-1  
麻生ハウス 3F  
TEL092-643-7075 / FAX092-643-7095  
E-mail : [mail@azusashoin.com](mailto:mail@azusashoin.com)

編集主幹…中村 雅史

編集委員長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…平 祐二

編集委員…壁村 哲平・岩永 知秋

中房 祐司・伊東 裕幸

横倉 義典・大嶋 由紀

# 第37回 一般社団法人 日本看護学校協議会学会 地域・在宅で活躍する看護師、 それを支える看護教育

2025年8月7日(木)・8日(金)

会場 九州大学医学部 百年講堂

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号



博多祇園山笠

## ハイブリッド開催 (Zoomウェビナー)

会場・オンラインでの参加をお選びいただけます。

第37回 一般社団法人 日本看護学校協議会学会

※学会公式ホームページの開設、お申込み等の詳細については2025年3月頃公開予定です。

### 会場アクセス

- 福岡空港から …… 地下鉄空港線「中洲川端駅」で乗り換え  
地下鉄箱崎線「馬出九大病院前」下車、徒歩8分
- JR博多駅から …… 地下鉄空港線「中洲川端駅」で乗り換え  
地下鉄箱崎線「馬出九大病院前」下車、徒歩8分
- 天神から …… 地下鉄箱崎線「馬出九大病院前」下車、徒歩8分

